



SURGICAL PROCEDURES  
Straumann® BLT Implant

## Basic Information



**ITI**

International Team  
for Implantology

ITI(International Team for Implantology)は独立した学術研究団体であり、これからも Straumann 社のパートナーとして〈研究・奨学・教育〉に関する活動を行っていきます。

# 目次

<b>1 Straumann® BLTインプラント</b>	<b>1</b>
<b>2 特長と利点</b>	<b>2</b>
2.1 デザイン	2
2.2 サーフェイス	3
2.3 トランスマルチーパーツ	3
2.4 補綴コネクション	4
<b>3 適応</b>	<b>5</b>
<b>4 治療計画</b>	<b>5</b>
4.1 術前計画	5
4.2 プランニングツール	9
<b>5 手術手順</b>	<b>11</b>
5.1 ワークフロー	11
5.2 インプラント床形成	14
5.3 インプラント埋入	16
5.4 軟組織マネジメント	18
<b>6 インスツルメント</b>	<b>19</b>
6.1 インスツルメントの深度目盛り	19
6.2 インスツルメントの洗浄と手入れ	19
6.3 サージカルカセット	20
<b>免責規定</b>	<b>21</b>

# 1 Straumann® BLTインプラント

Straumann®デンタルインプラントシステムは、ティッシュレベルインプラントとボーンレベルインプラントの2つのインプラントタイプで構成されています。

Straumann® BLTインプラントは、ティッシュレベルインプラント、ボーンレベルインプラントで培われたBone Control Design™を採用しています。Bone Control Design™の科学的原理は歯槽骨頂の維持を可能にする5つの生物学的要素を基本としており、インプラントの長期的な機能と審美を目的としています。また、CrossFit® コネクションを有し、これに対応するStraumann® ボーンレベルインプラントの補綴コンポーネントを使用します。BLTインプラントは、根尖部にテーパーデザインおよびセルフカッティング構造を採用することによって、骨が軟らかい症例や上顎審美部位、初期固定が必要となる抜歯窩に特に適したインプラントです。

Straumann® デンタルインプラント システム				
ティッシュレベルインプラント			ボーンレベルインプラント	
S	SP	TE	BL	BLT
Straumann® スタンダード インプラント (S)	Straumann® スタンダードプラス インプラント (SP)	Straumann® テーパードエフェクト インプラント (TE)	Straumann® ボーンレベル インプラント (BL)	Straumann® BLT インプラント

Straumann® BLTインプラントは、表面にSLA® サーフェイス処理が施されたグレード4の純チタンとSLActive® サーフェイス処理が施されたRoxolid® マテリアルが使用されています。インプラントの骨内埋入部分の直径には $\phi 3.3\text{mm}$ 、 $\phi 4.1\text{mm}$ 、 $\phi 4.8\text{mm}$ の3種類があり、統一されたカラーコードによってインスツルメントおよびインプラントの特定が容易です。



カラーコード		
● 黄	骨内埋入部分の直径 $3.3\text{mm}$	
● 赤	骨内埋入部分の直径 $4.1\text{mm}$	
● 緑	骨内埋入部分の直径 $4.8\text{mm}$	

## 2 特長と利点

### 2.1 デザイン

Straumann® BLTインプラントは、高い操作性と臨床的効果の実現を目的にデザインされており、多くの優れた機能を備えています。

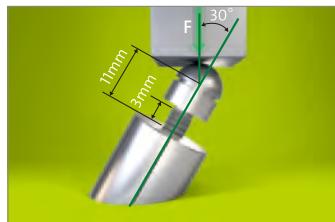
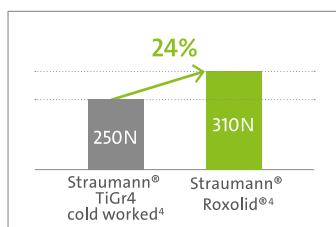


\* テーパードリリング…骨質によりファイナルドリル、プロファイルドリル、タップ使用の有無や形成深度を変えるドリリングテクニック

## 2.2 サーフェイスおよびマテリアル

BLTインプラントは2種類のマテリアルの選択が可能です。グレード4の純チタン製のStraumann® SLA®は冷間加工され、機械的強度が高く、長期的に高い生体適合性を備え、さらにSLA®処理されたラフサーフェイスは、オッセオインテグレーションの促進を可能にします。また、チタンにジルコニウムを配合したRoxolid®インプラントは機械的強度が高く、インプラント体にアバットメントを装着した強度試験において従来のグレード4の純チタンに対しても疲労強度が24%向上しています。そしてこのラインアップはStraumann® SLActive®の表面性状をもち、オッセオインテグレーションの促進を可能にします。

### 疲労強度試験



ISO 14 801の疲労試験セットアップイメージ



## 2.3 トランスファーーパーツ

BLTインプラントは、スナップインシステムを採用したLoxim™トランスファーーパーツを備えています。

特長	利点
スナップインシステム	インツルメント不要で簡単な取扱い
色	口腔内でも見やすい青
コンパクトサイズ	アクセスが容易
ガイドホール表示	正確なインプラント埋入
破折ポイント	骨への過剰な応力を回避

## 2.4 補綴コネクション

ボーンレベルインプラントのCrossFit®コネクションは、synOcta®モーステーパージョイントの技術と利点を骨レベルでのコネクションが応用されています。CrossFit®コネクションは、15°テーパーのコニカル・シリンドー形状の4つの軸ポジションを持ち、機械的にロックするフリクションフィットにより、様々な荷重条件のもとでも優れた長期的安定性を示し、スクリューの緩みを防止します。φ4.1mmおよびφ4.8mmのボーンレベルインプラントはレギュラーCrossFit®コネクション(RC)で、同じプラットフォームを有しています。φ3.3mmのボーンレベルインプラントは、ナローカross-Fit®コネクション(NC)になります。

CrossFit®コネクションでは、既製のアバットメントとCAD/CAMアバットメントを提供しています。これらのアバットメントは、あらゆる症例で最適な修復効果をもたらすように設計されています。BLTインプラントのプラットフォームはボーンレベルインプラントと共に、操作が容易でコンポーネントの管理も簡単です。



単独歯および複数歯欠損		無歯顎			
プレミアム	アドバンス	スタンダード			
<p>スクリュー固定</p>   <p>ゴールドアバットメント CARES®アバットメントセラミック</p>	<p>セメント固定</p>   <p>ゴールドアバットメント CARES®アバットメントセラミック</p>	<p>固定式</p>   <p>CARES®バー(アドバンス) ゴールドアバットメント</p>	<p>可撤式</p>   <p>CARES®バー ゴールドアバットメントバー用</p>		
 <p>CARES®インプラントブリッジ</p>  <p>CARES®アバットメントTAN</p>	  <p>アングルアバットメント CARES®アバットメントチタン</p>	 <p>CARES®バー(ベーシック)</p>  <p>CARES®インプラントブリッジ</p>	 <p>CARES®バー</p>		
 <p>Variobase™アバットメント</p>		 <p>セメントーションアバットメント</p>			
		 <p>LOCATOR®</p>			

プレミアム: 番美性に優れたジルコニア、ゴールドアバットメントなどのカスタムソリューション

アドバンス: 複数歯欠損などの症例で高度な技術によるソリューション

スタンダード: 一般的な症例で、既製アバットメントなど費用効果の高いソリューション

## 3 適応

インプラントの適応と禁忌の詳細に関しては、添付文書を参照してください。

Straumann® BLTには3種類の直径があり、それぞれが独自の機能を発揮します。

BLTインプラントの適応および特徴					
インプラントタイプ	特徴	最小頬舌的距離*	最小近遠心的距離**	インプラント長	
BLT $\phi$ 3.3mm NC		<ul style="list-style-type: none"><li>歯槽骨幅と近遠心幅が5.5mm以上の上顎・下顎の完全無歯顎および部分無歯顎に使用</li><li>⚠️ 重要:臼歯部での使用は推奨されません。</li></ul>	5.5 mm	5.5 mm	8–18*** mm
BLT $\phi$ 4.1mm RC		<ul style="list-style-type: none"><li>歯槽骨幅と近遠心幅が6mm以上の上顎・下顎の完全無歯顎および部分無歯顎に使用</li></ul>	6 mm	6 mm	8–18*** mm
BLT $\phi$ 4.8mm RC		<ul style="list-style-type: none"><li>歯槽骨幅と近遠心幅が7mm以上の上顎・下顎の完全無歯顎および部分無歯顎に使用</li><li>特に隣在歯根間及び歯槽骨幅が広い場合に適する</li></ul>	7 mm	7 mm	8–18*** mm

\*最低限必要な頬舌的距離、0.5mmで端数切り捨て

\*\*最低限必要な近遠心的距離、単独歯の修復のために最低限必要な近遠心的距離、0.5mmで端数切り捨て

\*\*\*Roxolid®SLActive®ラインアップのみ

## 4 治療計画

### 4.1 術前計画

インプラント治療には慎重な治療計画が何よりも重要です。希望通りの審美的結果を得るには、患者、歯科医師、歯科技工士の密接なコミュニケーションが不可欠です。

3次元的位置や軸の方向性、インプラントタイプの選択について困難なケースの場合には、以下のステップが推奨されます。

- 作業模型上で診断用ワックスアップを作成する。あるいは、患者の医療画像データと併せてcoDiagnostiX®のようなプランニングソフトウェアを使用する。
- 上部構造のタイプを決定する。

診断用ワックスアップは、後のステップでカスタムメイドのX線テンプレート、ドリルテンプレートの製作ベースやテンポラリー修復のベースとしても使用できます。

インプラントの直径、タイプ、ポジション、本数はそれぞれの解剖学的および空間的状況を考慮した上で、個々に選択してください。本章で示すサイズは最小値のガイドラインです。口腔衛生を確保できる修復を実現するには、最小距離を遵守することが重要です。

最終的な硬組織・軟組織の反応は、インプラントと修復物との位置関係によって影響を受けるため、インプラントとアバットメントの連結の位置は重要です。インプラントポジションは、以下の距離によって決まります。

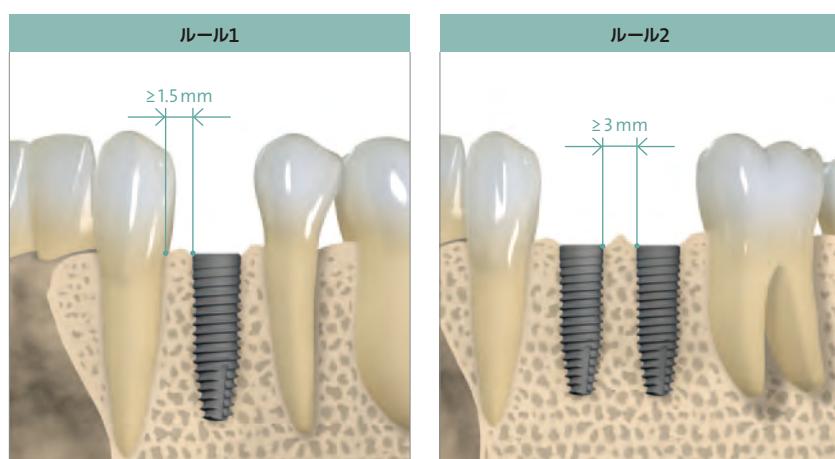
- ・近遠心的ポジション
- ・頬舌的ポジション
- ・垂直的ポジション

注: インプラントアバットメントでは、原則として常に軸方向に荷重がかかるようにしてください。インプラント軸の延長線上に対合歯の咬頭が一致するのが理想的です。また、極端な咬頭形成は非生理的な荷重の原因となるため避けてください。

#### 近遠心的ポジション

近遠心的な骨の質・量は、インプラントのタイプおよび直径、また、複数のインプラントを使用するケースでのインプラント間の距離を決める重要な要素です。近遠心的距離は、インプラントで一番太い径になるショルダー部分を基準に測ります。本章で示す距離は全て0.5mmで表します。

以下が基本的なルールとなります。



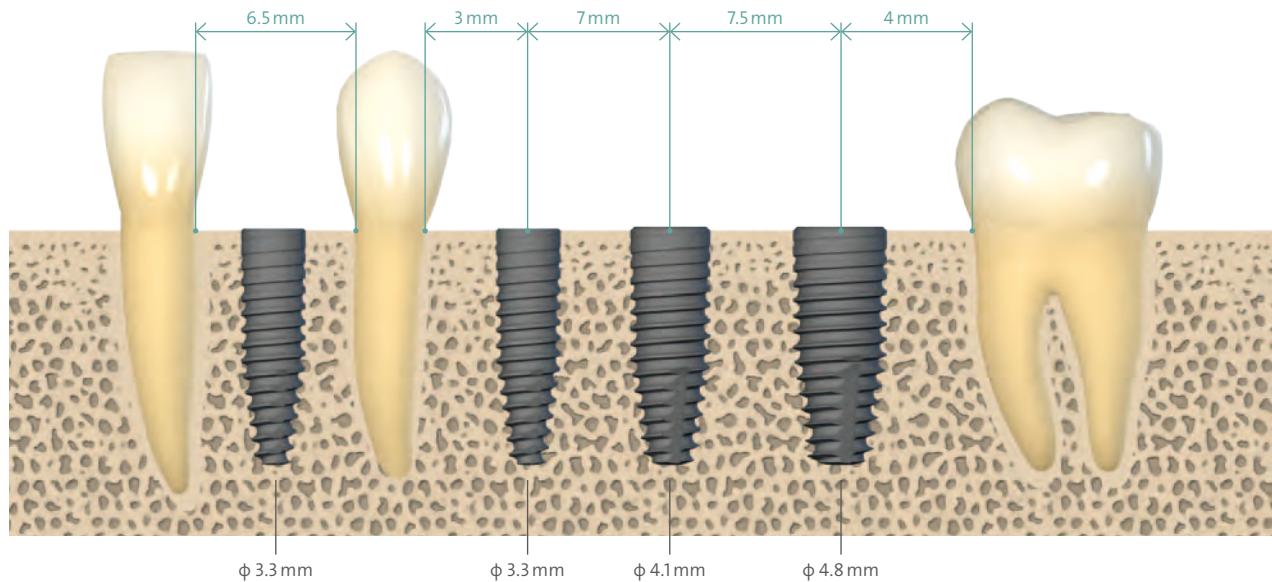
#### ルール1: 骨レベルでの隣接歯間の距離

インプラントショルダーから隣接歯までの最小距離は1.5mm必要です。

#### ルール2: 隣接するインプラント間の骨レベルでの距離

隣接する2本のインプラントには、インプラントショルダー間の近遠心的距離が最低3mm必要です。

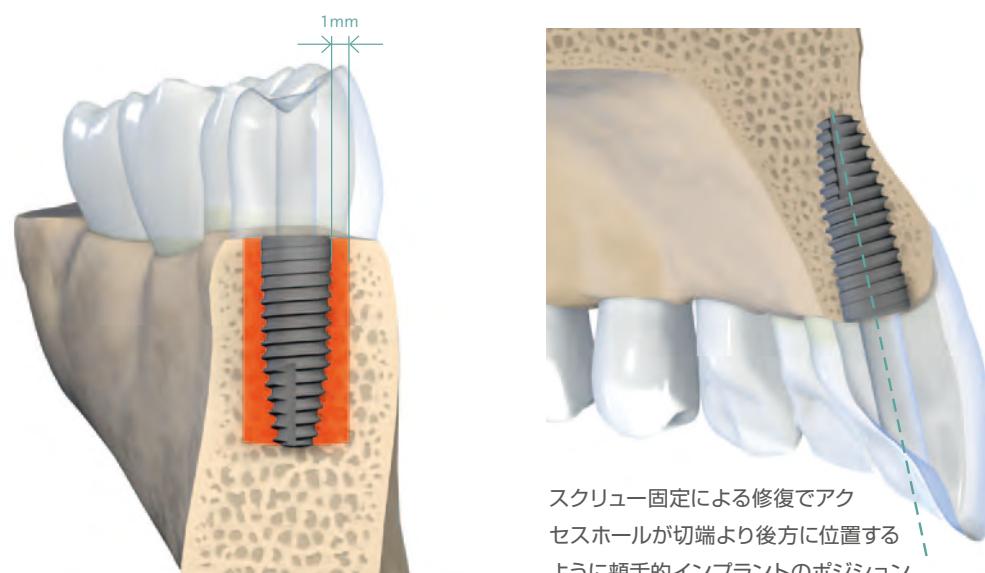
複数歯欠損がある場合のルール1および2の適用について、以下に一例を示します。隣接歯からインプラントの中心までの距離、および各インプラントの中心から中心までの距離を測ります。インプラントネック部分の効果的な公衆衛生を確保するためには、2本の隣接するインプラントショルダー間には最低でも3mmの距離があることが重要です。



#### 頬舌的ポジション

硬組織および軟組織の安定を得るために、インプラント周囲の骨は、頬側と舌側で1mm以上厚さが必要です。各インプラントタイプの頬舌的距離については、「第3章 適応」に記載されています。スクリュー固定による修復を行うためには、制限内で頬舌的インプラントポジションと軸の選択をする必要があります。

**重要:** 骨壁が1mm以下、もしくは骨壁が片方あるいは両方で欠損している場合は、骨造成が必要になります。骨造成術には充分な経験と知識が必要です。



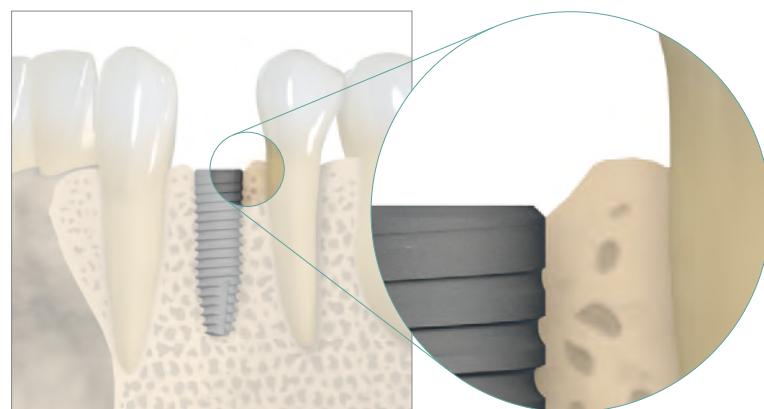
骨の厚みは1mm以上必要

スクリュー固定による修復でアクセスホールが切端より後方に位置するように頬舌的インプラントのポジションおよび軸を選択

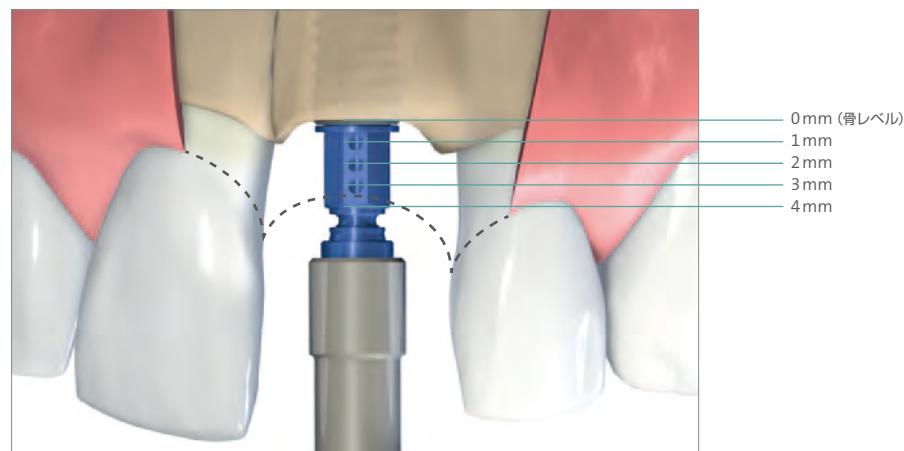
### 垂直的ポジション

ストローマンインプラントは、個々の解剖学的構造、埋入部位、修復方法や好みに合わせて垂直的なインプラントポジションを柔軟に行うことができます。

BLTインプラントは45°の傾斜になっているエッジ(シャンファー)の外側縁を骨レベルに合わせます。



審美領域においては、インプラントショルダーは歯肉マージンの約3~4mm歯肉縁下になるように位置付けるのが理想的です。Loxim™ トランスマーカーパーツのガイドホールは、インプラントのショルダーまでの距離を1mm単位で示します。



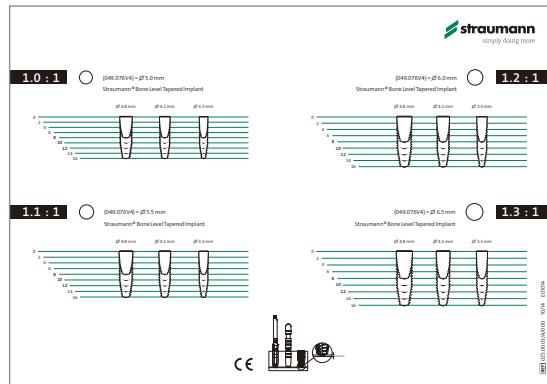
## 4.2 プランニングツール

利用可能な骨高径により、埋入できるインプラントのサイズが決まります。利用可能な骨高径を簡単に把握するため、X線フォイル（テンプレート）とX線基準用の金属製ポールの使用を推奨します。

### 4.2.1 X線フォイル

X線フォイルは測定と比較に使われますが、適切なインプラントのタイプや直径、長さを選択するため有効です。X線の縮尺に合わせて、それぞれのX線フォイルにはインプラントサイズが一定の率で拡大表示されています（1:1から1.7:1）。

各拡大率または縮尺の決定は、テンプレート上のX線基準用の金属製ポールを観ることで容易になります。まず、X線写真上のX線基準用の金属製ポールの直径をテンプレート上にある基準用の金属製ポールのサイズと比較します。X線写真とテンプレートを重ね合わせると正しい縮尺が分かります。次に、インプラント埋入予定位置の周囲の3次元的状況を確認し、インプラントの長さや埋入深度を確定します。



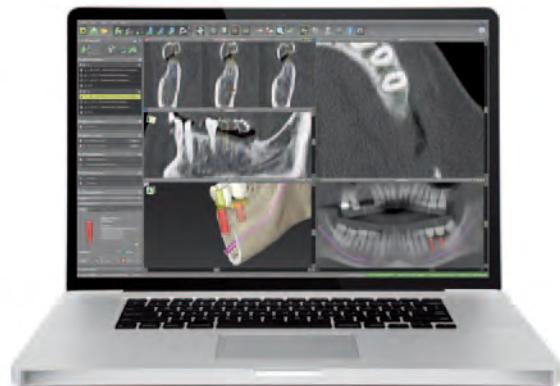
**重要:** BLTインプラントに関しては、BLTインプラントに対応するX線フォイルのみを使用してください（製品番号：025.0003）。

### 4.2.2 coDiagnosiX®（ストローマンガイド・ソフトウェア）

coDiagnosiX®（ストローマンガイド・ソフトウェア）を使用したシミュレーションソフトによるプランニング方法もあります。外科的、補綴的にも適切な位置へのインプラント埋入を実現し、coDiagnosiX®ソフトウェアのインプラントライブラリーには、BLTインプラントも搭載されています。ソフトウェアで使用するのはCTなど患者の医療画像データで、これらはcoDiagnosiX®によって処理されます。

プランニングには、様々な画像表示のための処理や画像データ、インプラント埋入、アバットメント、スリーブの分析が含まれます。

coDiagnosiX®ソフトウェアは、インプラント歯科学についての適切な知識を持った専門家用に設計されています。詳細については、『coDiagnosiX®ハンドブック』を参照してください。



#### 4.2.3 ディスタンスインジケーター

ボーンレベルインプラント用のディスタンスインジケーター（製品番号：026.0901）は、BLTインプラントにも使用できます。

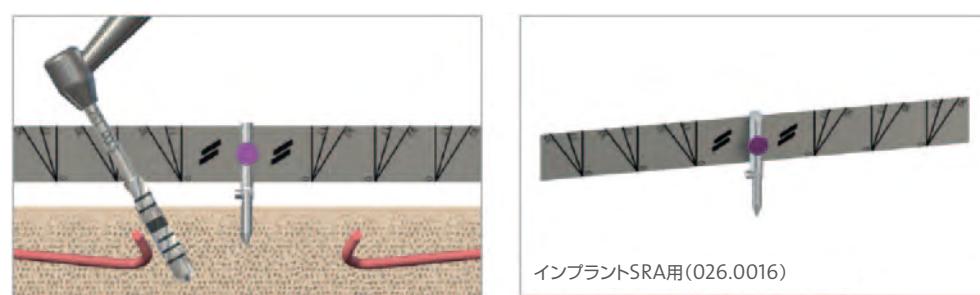
ディスタンスインジケーターの先端のディスク部分は、インプラントのショルダー径に対応します。このインスツルメントは、利用可能なスペースを治療前に確認する場合に使用でき、手術中にインプラント位置をマークするために使用することもできます。

ボーンレベルインプラントおよびBLTインプラント用ディスタンスインジケーター			
	レッグ表示	ディスク径	対応するインプラント
レッグ1	BL $\phi 4.1$	$\phi 4.1\text{mm}$	ボーンレベルインプラント BLTインプラント $\phi 4.1\text{mm}$
レッグ2	BL $\phi 4.1$	$\phi 4.1\text{mm}$	ボーンレベルインプラント BLTインプラント $\phi 4.1\text{mm}$
レッグ3	BL $\phi 3.3$	$\phi 3.3\text{mm}$	ボーンレベルインプラント BLTインプラント $\phi 3.3\text{mm}$
レッグ4	BL $\phi 4.8$	$\phi 4.8\text{mm}$	ボーンレベルインプラント BLTインプラント $\phi 4.8\text{mm}$

#### 4.2.4 インプラントガイド SRA用

外科手術中におけるインプラント体の埋入角度の三次元方向からの基準として平行性を確認するためにインプラントガイドSRA用を使用できます。

インプラントガイドSRA用は無歯頸へのインプラント体の埋入の際に使用します。このガイドは頸堤のアーチに沿って容易に形態を修正することができます。正中近辺に $\phi 2.2\text{mm}$ のパイロットドリルを使用して穿孔しガイドのピン部分を差し込みます。関節部分の微調整はTSスクリュードライバー（046.420）を使用します。



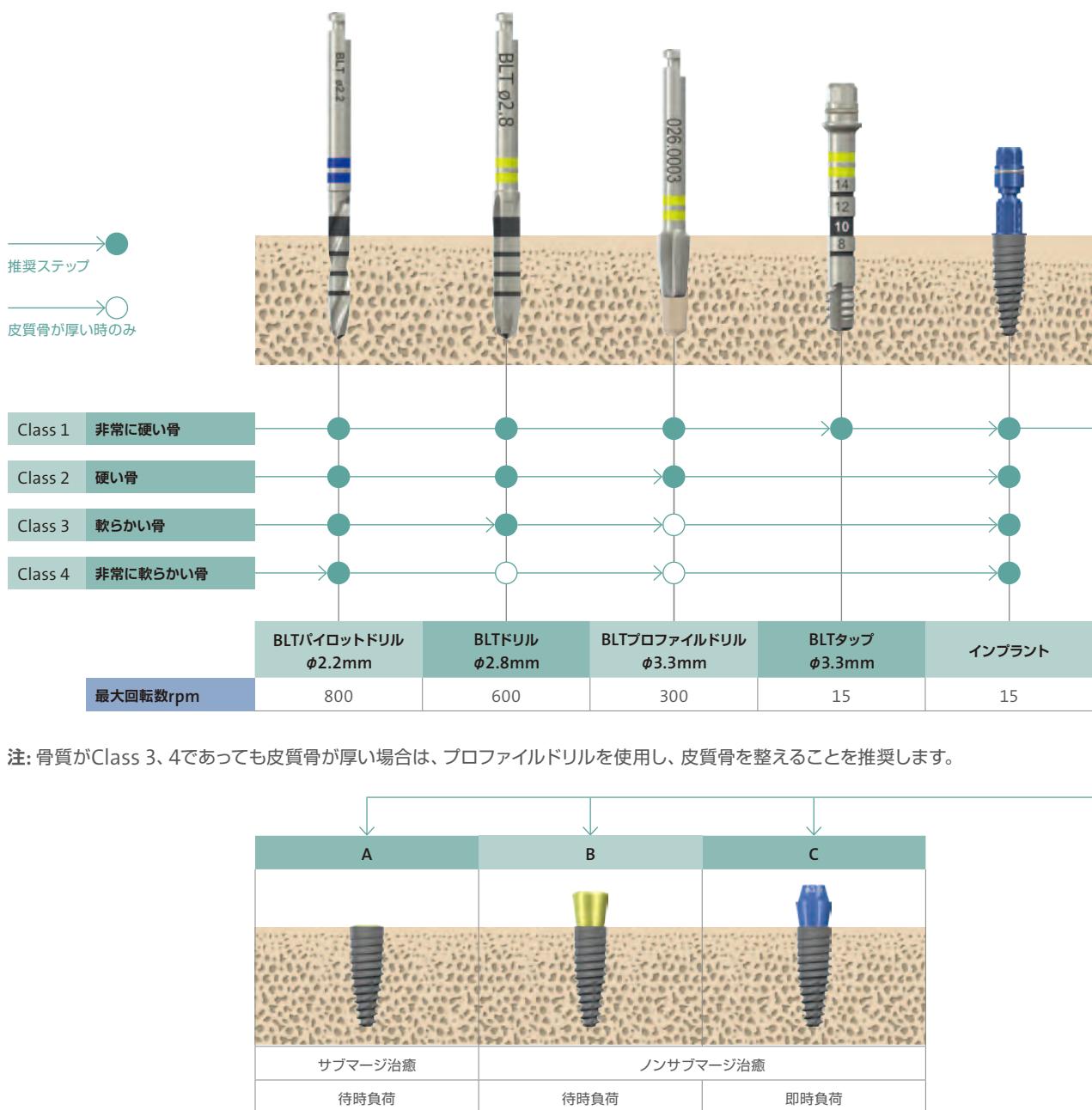
# 5 手術手順

Straumann® サージカルカセットは、全てのインプラントシステムのインプラント床形成の際に使用します。BLTインプラントに使用するインスツルメントには、2本のカラーリングが表示されています（「第6.1章 インスツルメントの深度目盛り」を参照）。

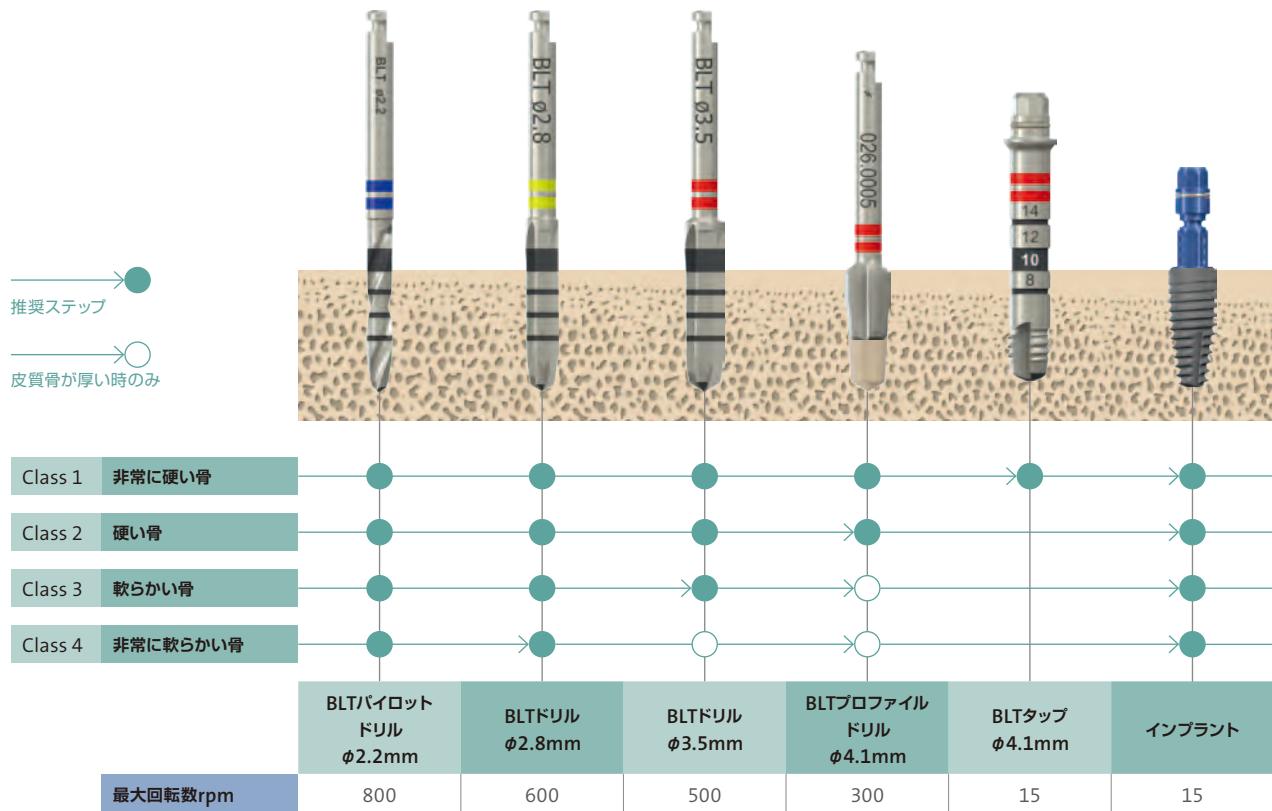
BLTインプラントでは骨密度 (Class 1=非常に硬い骨, Class 4=非常に軟かい骨) に応じて、異なるドリリングプロトコルを適用する場合があります。それぞれの骨質と解剖学的状況によってインプラント床の形成を調整できる柔軟性を得ることができます。

## 5.1 ワークフロー

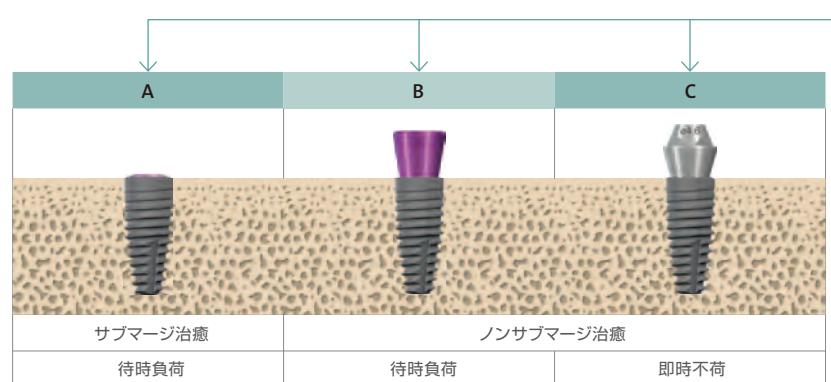
### 5.1.1 Straumann® BLT インプラント $\phi 3.3\text{mm NC}$



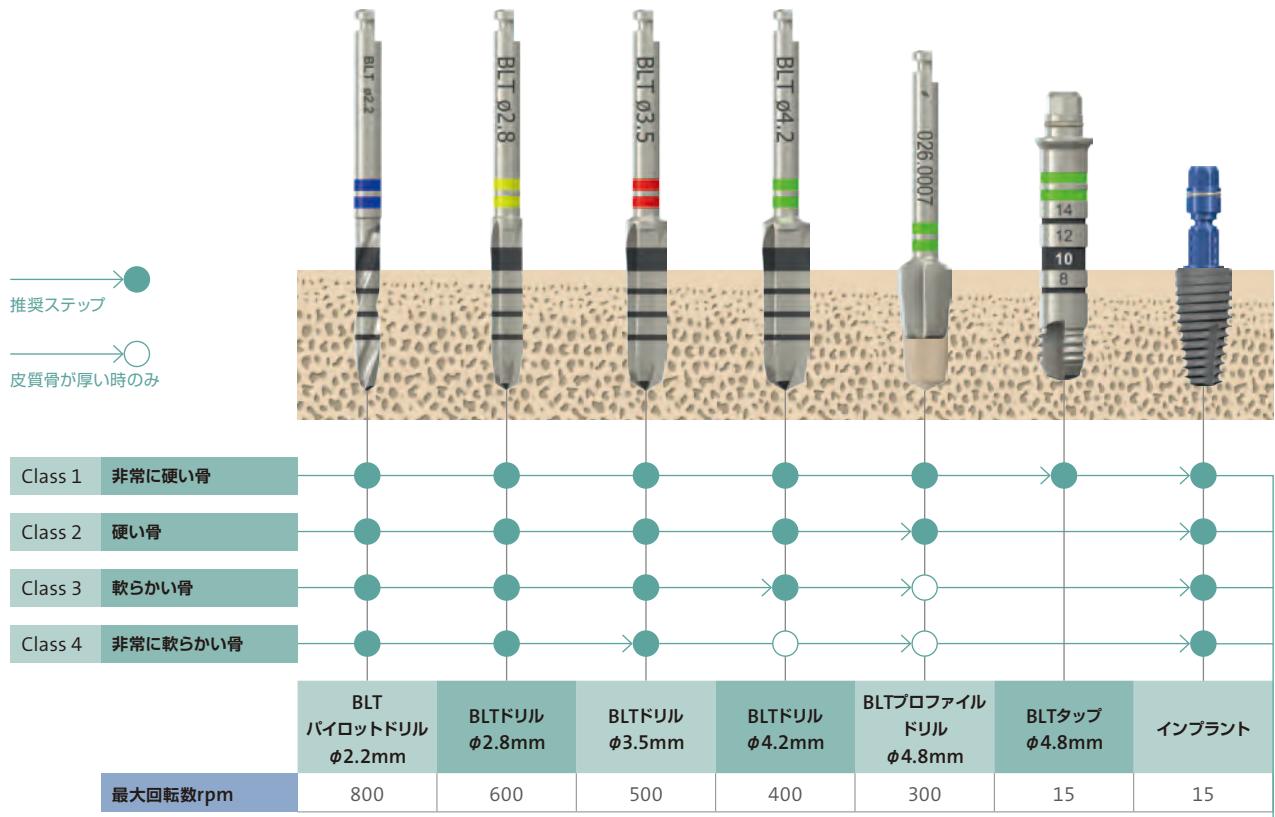
### 5.1.2 Straumann® BLT インプラント $\phi 4.1\text{mm RC}$



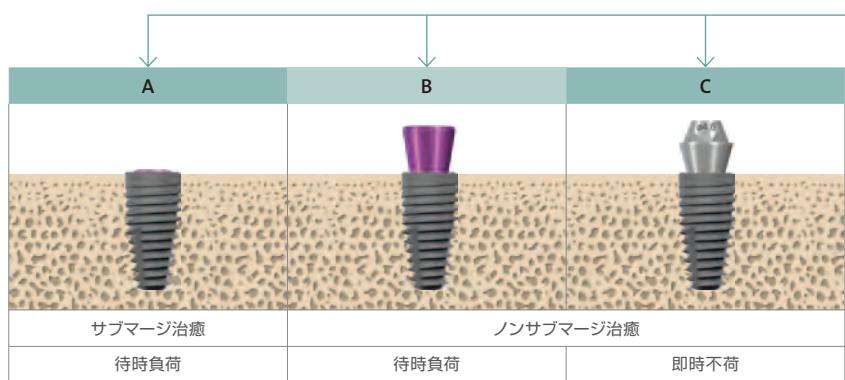
注: 骨質がClass 3、4であっても皮質骨が厚い場合は、プロファイルドリルを使用し、皮質骨を整えることを推奨します。



### 5.1.3 Straumann® BLT インプラント $\phi 4.8\text{mm RC}$



注: 骨質がClass 3、4であっても皮質骨が厚い場合は、プロファイルドリルを使用し、皮質骨を整えることを推奨します。



## 5.2 インプラント床形成

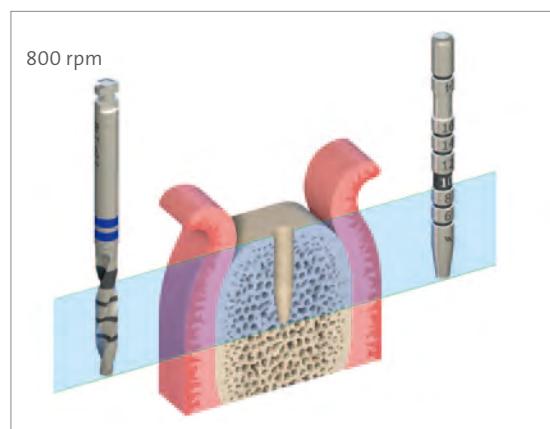
非常に硬い骨 (Class 1) の症例における、BLTインプラント $\phi 4.1\text{mm} / 10\text{mm RC}$ を使ったインプラント床形成について説明します。

歯肉を切開したら、骨を平坦化した (ステップ1) ラウンドバーを用いてインプラント位置をマーキングし (ステップ1) インプラント床の基本形成を開始します。続いて、選択したインプラントの骨内部分の直径に合わせ、BLTパイロットドリルおよびBLTドリル (ステップ2~4) を使用してインプラント床形成を進めます。インプラント床の皮質骨をBLTプロファイルドリルで拡げ (ステップ5)、BLTタップにてスレッドを切削します (ステップ6)。



**ステップ1—骨を平坦化して、インプラントの埋入部位にマーキングする**  
大きなラウンドバーで狭い骨頂を注意深く削り滑らかにすると、骨の表面は平らになり十分な骨幅を得ることができます。ラウンドバー $\phi 1.4\text{mm}$ で計画したインプラントの埋入部位にマーキングします。

**注:** 臨床的状況によっては (例: 抜歯窩)、このステップは適用できない、または異なります。

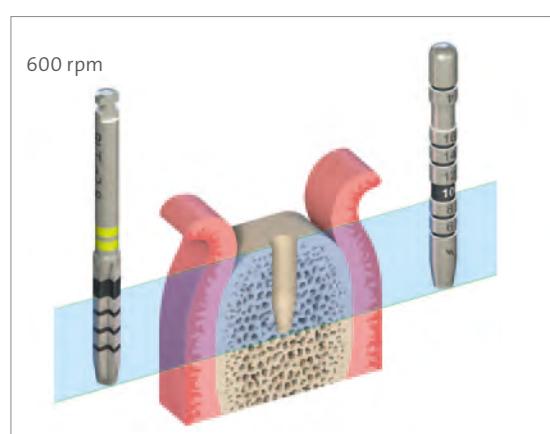


### ステップ2—インプラント軸と深度

BLTパイロットドリル $\phi 2.2\text{mm}$ を使い約6mmの深さまでドリリングしてインプラント軸をマーキングします。アラインメントピンを挿入し、インプラント軸の方向を確認します。

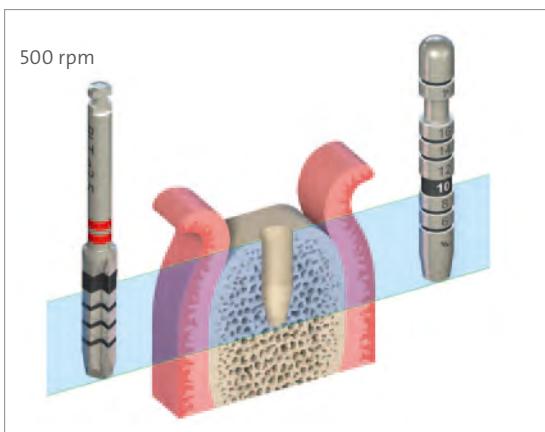
BLTパイロットドリル $\phi 2.2\text{mm}$ で最終のドリル深度までインプラント床を形成します。必要に応じて、不適切なインプラント軸の方向を修正します。再度、アラインメントピンを使って、インプラント軸の方向とドリル深度を確認します。

**注意:** この時点でX線写真を撮影し、骨高径の不足を調べます。ドリリングした部位にアラインメントピンを挿入して、ドリリングした穴と解剖学的構造の間の距離を確認します。



### ステップ3—インプラント床を $\phi 2.8\text{mm}$ まで拡大する

BLTドリル $\phi 2.8\text{mm}$ を使って、インプラント床を拡げます。必要に応じて、インプラント床の位置を修正します。深度ゲージ $\phi 2.8\text{mm}$ でドリル深度を確認します。



#### ステップ4—インプラント床を $\phi 3.5\text{mm}$ まで拡大する

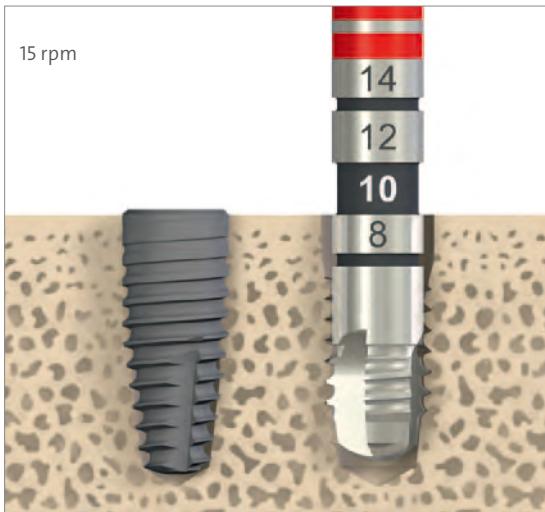
BLTドリル  $\phi 3.5\text{mm}$ を使って、インプラント床を拡げます。必要に応じて、インプラント床の位置を修正します。

深度ゲージ  $\phi 3.5\text{mm}$ でドリル深度を確認します。



#### ステップ5—プロファイルドリルを使ったドリリング

垂直方向のポジションのガイドラインとして利用し、BLTプロファイルドリル  $\phi 4.1\text{mm}$ でインプラント床の歯冠側を形成します。



#### ステップ6—タップによるドリリング

インプラント床の形成で全深度を超す場合、BLTタップ  $\phi 4.1\text{mm}$ でスレッドを事前に切削します。Class 1の骨質でのみタップを使用します。使用する際は、インプラント長に合わせ目的の深度まで形成します。

**注意:** 2本のカラーリングがついたBLTプロファイルドリルとBLTタップは、BLTインプラント専用になります。

### 5.3 インプラント埋入

ストローマンインプラントは、ラチェットを使いマニュアルで、またはハンドピースを使って埋入することができます。

ハンドピースを利用する時は、最大回転数15rpmを超えないようにします。

注: Straumann® BLTインプラントは、ハンドピースまたはラチェットを使用したどちらの埋入手順でも正しいインプラントポジションにする必要があります (ステップ4を参照)。

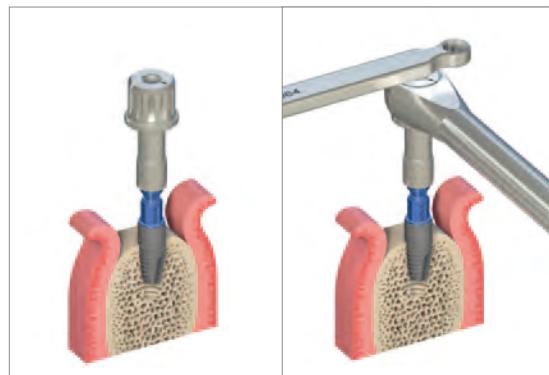
以下の手順では、BLTインプラントをラチェットで埋入する方法について説明しています。



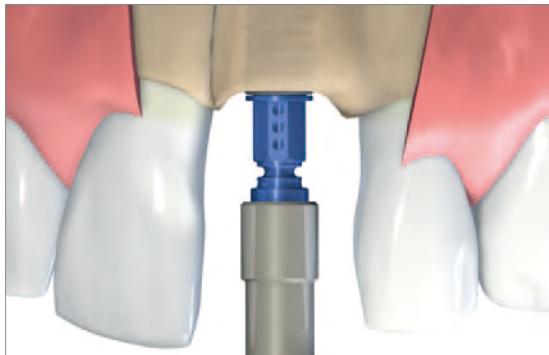
ステップ1—インプラント挿入アダプターを取り付ける  
内部アンプルの側面部を持ち、インプラント挿入アダプターをLoxim™に装着します。カチッと音がするまで挿入してください。



ステップ2—内部アンプルからインプラントを取り出す  
内部アンプルを下方に引き、インプラントを持ち上げながら取り出します (手で支えて持ち上げてください)。

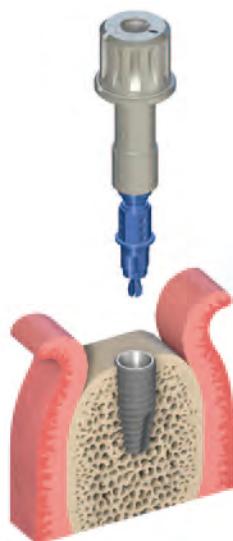


ステップ3—インプラントを埋入する  
インプラント床にインプラントを埋入します。ラチェット (またはハンドピース) を使って、インプラントを時計回りに回しながら最終位置まで埋入します。



#### ステップ4—インプラントポジションを修正する

最終的なインプラントポジションへと埋入していく際、青色のLoxim™ トランスファーパーツ上にあるガイドホールが頬側に正確に向いているか確認します。インプラント内部の4つの軸のポジションが適切な位置にあることにより、適切なアバットメントの装着が可能になります。次のガイドホールまで4分の1回転すると、垂直方向に0.2mm移動します。



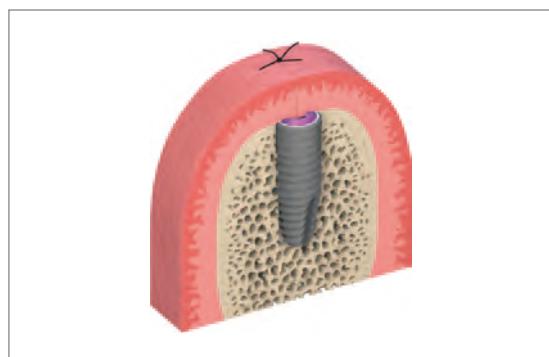
#### ステップ5—Loxim™を取り外す

インプラントが完全に埋入される前であれば、Loxim™を再装着しインプラント埋入を簡単に修正できます。埋入中にインプラント撤去が必要な場合は、Loxim™を反時計回りに回します。挿入後は、Loxim™をアダプターごと上に持ち上げ外します。

インプラントが最終ポジションに達する前に埋入トルクが35Ncmを越えた場合は、インプラント床の形成が正しく骨への過剰な圧縮がないか確認する必要があります。Loxim™では、インプラントの内部構造を保護するため破折ポイントが80Ncmに設定されており、インプラント内部構造が保護されます。

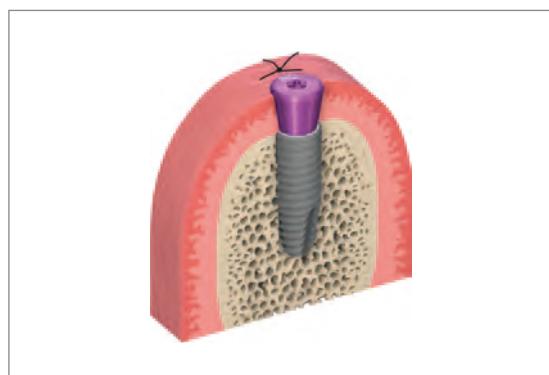
## 5.4 軟組織マネジメント

埋入後のインプラントに、封鎖スクリュー、ヒーリングアバットメントを装着し手で締め付けます。サブマージ治癒またはノンサブマージ治癒の選択ができ、軟組織マネジメントのための様々なコンポーネントのオプションがあります。



### サブマージ治癒

サブマージ治癒（粘膜骨膜フラップ下の治療）では、封鎖スクリューの使用を推奨します。サブマージ治癒は、審美性が求められる適応症、インプラント挿入と同時に骨誘導再生法（GBR）またはメンブレン法を行う場合に適しています。インプラントに補綴コンポーネントを装着するために二次手術が必要になります。



### ノンサブマージ治癒

ストローマンインプラントには、ノンサブマージ治癒期間の軟組織マネジメントを可能にする多様なヒーリングアバットメントが対応しています。軟組織の治癒期間の後、適切なテンポラリーまたは最終修復物に置き換えられます。



### ノンサブマージ治癒 - 即時修復

BLTインプラントは、適用の範囲内で、単独歯欠損、複数歯欠損、あるいは無歯顎での即時修復と早期修復に適しています。良好な初期固定と適切な咬合荷重は不可欠です。即時修復に対して、ボーンレベル補綴用ポートフォリオでは幅広いテンポラリーまたは最終修復物を取り揃えています。

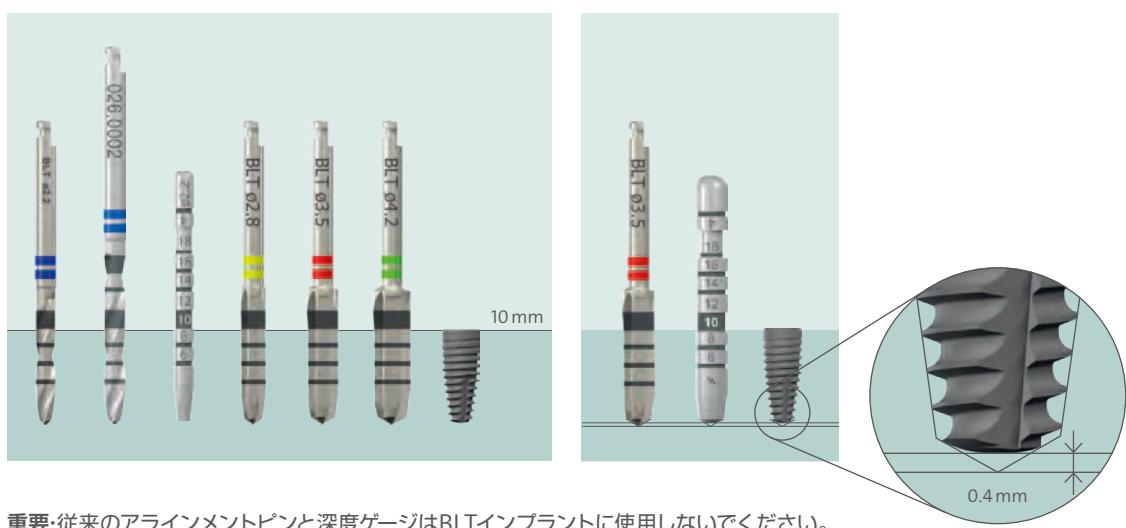
詳細については、『ベーシックインフォメーション PROSTHETIC PROCEDURES Straumann® Bone Level Implant』を参照してください。

# 6 インスツルメント

## 6.1 インスツルメントの深度目盛り

ストローマンのインスツルメントには、インプラントの長さに対応して2mm毎に深度を示すマーカーが付いています。ドリル中ほどの太いマーカーは10mmから12mmまであり、マーカーの下端は10mmを、上端は12mmを示しています。

**注意:**ドリルの機能と構造から、ドリルの先端はインプラント埋入深度よりも最大で0.4mm長くなっています。



## 6.2 インスツルメントの洗浄と手入れ

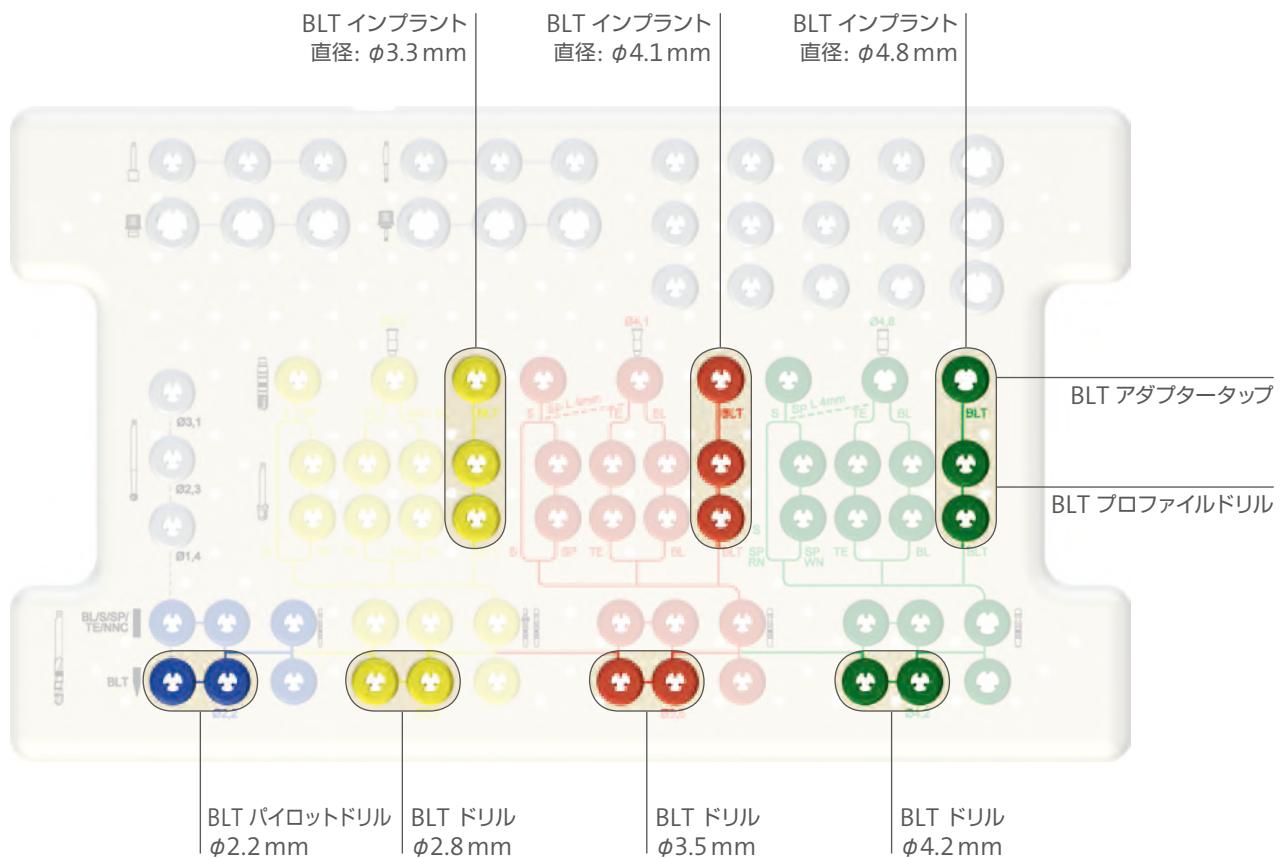
全てのインスツルメントは慎重に取り扱ってください。水の入った容器にドリルを“投げ入れる”ような扱い方をすると、ドリルの尖端部が損傷し切削性能が損なわれます。ドリルやタップなどの切削用インスツルメントは、適切な取り扱い、手入れを行うことで高い品質・機能が保持され、再利用が可能になります（最高10回まで使用できます）。

インプラント手術には、高い切削性能を持つインスツルメントが不可欠です。以下の内容を遵守してください。

- ・ それぞれのインスツルメントは、意図した目的にのみ使用してください。
- ・ 手術に使用したインスツルメントはただちに洗浄し、手術残渣（血液、分泌物、組織残渣等）が付着したまま放置して乾燥させないでください。
- ・ 汚染物が乾いてこびりついてしまった場合は、ナイロンブラシを使用して丁寧に除去してください。分解できるインスツルメントは分解し、内腔もきれいにしてください。
- ・ 材質の異なるインスツルメントを一緒に洗浄（超音波洗浄を含む）、消毒、滅菌しないでください。
- ・ 材質に適した洗浄剤／消毒剤を使用し、メーカーの指示に従ってください。
- ・ 洗浄剤、消毒剤は水で徹底的に洗い流してください。
- ・ インスツルメントに水分が付着したままの状態で放置、保管しないでください。

### 6.3 サージカルカセット

サージカルカセットは、Straumann® デンタル インプラント システムのサージカルインスツルメントや補助インスツルメントを滅菌状態で確実に保管するためのものです。このカセットには衝撃に非常に強いプラスチックが使用されています。この材質は医療分野で長い実績があり、オートクレーブでの頻繁な滅菌にも適しています。オートクレーブは134°Cまでを推奨しています。



## 免責規定

Straumann®インプラントは一貫したコンセプトの一部であり、インプラントに付随するオリジナルパーツやインツルメント類を含め、Straumann社の指示と忠告に従って使用してください。そうでない場合、Straumann社および販売者は一切の責任を負いません。Straumann製品を他社製品と併用された場合は、Straumann社の保証はすべて無効となります。

Straumann製品の使用に関する説明については、製品発売時の最新情報を口述、書面、電子媒体またはトレーニングコースで提供しています。

Straumann製品の使用者は、それぞれの患者様に対し、どの製品がどの状況に適当であるか否かを決定する義務を負います。専門的判断の誤りや、Straumann®インプラントの使用またはそれに関連して発生した直接・間接的損害に対し、Straumann社および販売者は一切の責任を負いません。また使用者は、Straumann®システムとその使用方法について定期的に学ぶことを強くお勧めします。

Straumann製品を口腔内で使用する場合は、誤飲のないように充分な注意と対策を行ってください。

### 注意

Straumann®デンタル インプラント システムを使用する場合は、本書や製品に添付されている添付文書を熟読の上、ご使用ください。さらに、十分な知識と使用経験のある歯科医師の指導を受けることを強くお勧めします。

### 記載内容の有効性について

本書の発行により、旧版はすべて無効となります。

### 製品の購入について

本書に一覧する製品の中には国によってご購入いただけないものがあります。

### 製品の販売について

本書に記載されているパーツやインツルメントは歯科医師の注文にもとづき販売されることが規定されています。

### その他説明書について

Straumann®デンタル インプラント システムに関する詳しい説明書については、弊社担当営業までお問い合わせください。

### 著作権

本文またはその一部をInstitut Straumann AGの書面による許可なくして複製または発行することはできません。

Straumann® Dental Implant SystemはInstitut Straumann AG社の登録商標です。

Straumann®およびStraumann製品に使用されるロゴは、Straumann Holding AGの登録商標です。

本書に掲載されている製品、写真やイラストならびに表記、また、日本語や英語の表記や表現方法が、予告なく変更される場合もございます。Straumann®インプラントの使用者は、製品に関する添付文書の確認ならびに、最新の情報に基づいて、製品の利用をお願いいたします。

Straumann®デンタル インプラント システムの使用に関するトレーニング・コースも提供しております。

トレーニング・コースに関する情報は [www.straumann.jp](http://www.straumann.jp) をご覧いただけます。弊社担当営業までお問い合わせください。

### 製造元による表示例

LOT

ロット／製造番号

REF

製品番号

STERILE | R

ガムマ線滅菌



最低温度制限

最高温度制限

温度制限

Rx only

US連邦法により、この機器の販売は認可された歯科医師に対してのみ、または認可された歯科医師の指導の下で行うように規制されています。



再使用禁止 (使い捨て用)



非滅菌



包装中の添付文書を参照



使用期限厳守



直射日光・高温厳禁



CEマークがついたStraumann製品は医療機器指令93/42 EECの要件を満たしています。



取り扱い説明書を参照

SLA

Sand-blasted, Large grit, Acid-etched  
サンドブラスト・ラージグリット・酸エッ칭

本カタログに掲載されている製品は、下記のそれぞれの医療機器承認／認証／届出番号を得ています。

販売名	一般的名称	分類	承認／認証／届出番号
ストローマンインプラント(滅菌済)	歯科用骨内インプラント材	高度管理医療機器	21400BZY00014000
ストローマンインプラント(SLActive) TL	歯科用インプラントフィクスチャ	高度管理医療機器	22600BZX00016000
ストローマンインプラント(SLActive) BL	歯科用インプラントフィクスチャ	高度管理医療機器	22600BZX00257000
ストローマンインプラント(Ti SLA) BLT	歯科用インプラントフィクスチャ	高度管理医療機器	22700BZX00167000
ストローマンインプラント(Roxolid SLActive) BLT	歯科用インプラントフィクスチャ	高度管理医療機器	22700BZX00208000
ストローマンインプラント(Roxolid SLActive) BL	歯科用インプラントフィクスチャ	高度管理医療機器	22700BZX00241000
ストローマンインプラント(Roxolid SLActive) TL	歯科用インプラントフィクスチャ	高度管理医療機器	22700BZX00428000
ゴールドアバットメント	歯科用インプラントアバットメント	高度管理医療機器	22300BZX00108000
ストローマン Ti アバットメント	歯科用インプラントアバットメント	高度管理医療機器	22300BZX00111000
ストローマン ロケーターシステム BL	歯科用インプラントアバットメント	高度管理医療機器	22500BZX00399000
ストローマン サージカルインツルメント	電動式歯科用インプラント手術器具	管理医療機器	227AGBZX00052000
ストローマン 補綴用ツール	歯科インプラント補綴用器具	一般医療機器	13B1X10163000306
ストローマン インプラント用マニュアルツール	歯科用インプラント手術器具	一般医療機器	13B1X10163000305
ラウンドバー	歯科用スチールバー	一般医療機器	13B1X10163000120

[www.straumann.jp](http://www.straumann.jp) or Visit us on Facebook



### ストローマン・ジャパン株式会社

〒108-0014 東京都港区芝5-36-7 三田ベルジュビル 6階

受注専用ダイヤル: 0120-418-995

製品サポート: 0120-689-930

デジタルサポート: 0120-418-320

FAX (共通): 0120-418-089

TEL受付時間: 平日9:00~17:30 (デジタルサポートは18:00まで)

当日出荷受付時間: 平日17:00まで エムドゲイン当日出荷受付時間: 平日14:00まで

### [登録技工所]

### エトコン・ジャパン株式会社

本文またはその一部をInstitut Straumann AGの書面による許可なくして複製または発行することはできません。

Straumann® および他の商標とStraumann® のロゴは、Straumann Holdings AGおよびその関連会社の商標および登録商標です。